

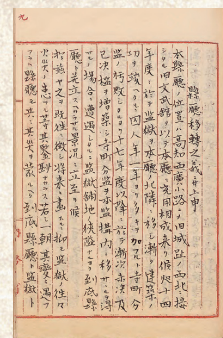
歴史下華鏡

91回

監獄署の隣に

学校を移転？

高知県立高知城歴史博物館
高木 翔太



●「公文録・明治十七年・第二十四巻・明治十七年一月・内務省（第一）」「高知県庁移転ノ件」国立公文書館所蔵

戦災で県庁公文書が焼失した高知県にとって、明治期の県政を明らかにするには国立公文書館（東京都千代田区）の利用が欠かせない。

今回は、国立公文書館の資料を用いて、明治十七（一八八四）年頃に城下町における公共施設の移転整備が、どのように検討および実施されたのか紹介する。

まず、県庁と監獄署が高知城の北西（現在の城西公園）にあったことをご存じだろうか。同地に高知刑務所（昭和五十一（一九七六）年に布師田へ移転）があったことを記憶している方は少なくないであろう。また、県庁は現在丸の内にあるが、当初は藩校致道館を利用して、お城の北西に設置された。

国立公文書館が所蔵する「高知県庁移転ノ件」（明治十六年十二月付）には、囚人が年々増加し、監獄署が狭隘化したため、増築に向けて隣接する県庁・警察本署を移転する計画が記されている。監獄署の移転は囚人の移動が難しく、「監獄で火災があれば県庁にも被害が及んでし

まうため望ましくない」、「県庁を高知市街中央に移して不便を避ける」などの理由が挙げられている。

そして、県庁と警察本署を新築する予算はなかったため、県立中学校と師範学校（男女別）の校舎を県庁舎とし、学校は従来の県庁舎を代用する移転入替案に落ち着いた。

この計画は、国から許可が下り、明治十七年五月には、県庁と警察本署が丸の内に移転した。その後、学校は監獄署の隣に一旦移るが、明治十九年には追手筋（現在の追手前高校）に移転する。これにより、当初の監獄を増築するための条件は整い、お城の北西には監獄署のみが残った。

県庁が現在の場所になぜ移ったのか、学校が監獄署の隣に移転された経緯など、公文書から明らかにする事実（歴史）は多い。また、過去の都市計画を現在に活かすことは重要である。自分が住むまちの歴史が残り、これからの「あかるいまち」の参考になるよう、公文書の保存・管理が望まれる。

市長コラム

内和の外順

高知市長 岡崎誠也

団塊の世代と現在

全国的に、もっとも人口が多いと言われる「団塊の世代」は、昭和22年から昭和24年生まれの年代の方々をさしています。

この世代の出生数は、年間なんと270万人も生まれています。令和元年に日本で生まれた子どもさんは約91万8千人だそうですので、団塊世代の出生数は、現状の約3倍近くにもなります。

この団塊世代の子どもさんが「団塊ジュニア」と呼ばれ、昭和46年から昭和49年に生まれた方々をさし、この当時は、毎年約200万人の子どもさんが誕生していました。

この団塊の世代の巨大な人口のかたまりは、日本の高度成長期を支え、我国の発展に多大なる貢献をいただきました。

現在、日本の人口は、2008年の1億2808万人をピークに減少し続けており、近い将来、出生数は90万人を割り込むことが危惧されています。

人手不足が深刻になりつつあり、スーパーの惣菜などをつくる

るバックヤードの人手不足や農業現場での作業など、担い手不足が深刻になっています。

高知県内においても、ユリなどの栽培用のハウスの中には、研修生としてベトナムなどをはじめとするアジア各国の人々が多く働いています。

働く現場では、女性の進出も増えてきており、この5年間で女性の就業人口は、全国で約288万人増加しており、65歳以上の雇用も増加してきています。

さまざまな分野で女性の活躍が目立ってきていますので、家庭と職場のバランスがとれる支援施策をさらに充実させていくことが大切です。



広告



私たちは、音を耳で聴き、脳で理解して聞き取ります。

～頭でスッキリ!! ストレスのない聞き取りをあなたへ～

まずはあなたのお悩みをお聞かせ下さい。



新日本補聴器センター 高知店

試聴・貸出・調整メンテナンスは全て無料で承ります。

高知市北本町2丁目1番12号 駐車場有り(ホテル港屋第1パーキング内)

営業時間 午前9時～午後5時 定休日 日曜・祝日・第4土曜

TEL 088-885-5855

※木・金曜日留守の場合があるためご連絡下さい。ご相談により、時間外相談・訪問も承ります。

